

## 編集後記

本論文集冒頭の大森正仁先生の写真は石戸晋さん撮影の一枚で、一貫教育校の生徒に語りかけておられる姿である。大森先生の師匠である故・栗林忠男 法学部名誉教授の写真も石戸さんが撮ってくださった。長年のご厚意に深く感謝申し上げる。

大森先生は学内の要職を歴任されご多忙をきわめつつ、学部と大学院の教育指導に心血を注がれた。本論文集は、大学院において先生の指導を直接受けることができた幸福な弟子たちによるものである。先生の学恩に少しでも報いることができると、パンデミックの状況下においても万難を排してご寄稿くださったことに厚く御礼を申し上げます。大森先生は実に多彩な弟子を育て上げられた。本論文集に海洋法、航空法、宇宙法、国際環境法、国際機構法、国際人権法、国際武力紛争法などの論文が収録されていることがその証左であろう。執筆者一同、学問の厳しさを教えてくださった大森先生を思い、歯をくいしばって筆を進めた。特に、国際法合同演習の緊張感と充実感を想起した。国際法専攻の院生にとって一週間のハイライトは月曜三限

であり、三田の大学院棟教室の窓から見える銀杏とともに、一生記憶に残る時間である。執筆者に限らず、卒業生は先生の教えを胸に、幅広く社会に貢献している。本論文集はそうした全員からの、先生への感謝と敬意を凝縮したものである。

さらに、外務省の両課長（慶應義塾大学法学部にて国際法演習ご担当）がご寄稿くださったおかげで本論文集は格段に輝きを増した。深く感謝申し上げます。土曜に三田で開講され、現職の外交官が国際法の実務をご教示くださる演習には、毎年熱心な学部生が集っている。

本論文集の刊行にあたり、法学研究編集委員会にて御礼申し上げます。編集室にて献身的に業務をこなされる四塚久美子さんは執筆者を励まし、終始温かく配慮してくださった。慶應義塾大学出版会編集部の村山夏子さんと堀井健司さんは、常に的確な指示をくださり、プロフェッショナルたる超人的な仕事ぶりでご本論文集を実現させてくださった。どのような言葉をもってしても感謝を十分に表すことはできない。心より御礼申し上げます。

大森先生は毎年ゼミOB/OG会挨拶の始めに必ず奥様からのメッセージを紹介された。OB/OGから慕われ続ける奥様にも深甚なる感謝と敬意を表したい。

これからも大森先生のご健康とご活躍を心より祈念し、  
本論文集を謹呈する。

二〇二〇年十二月

法学部専任講師 尹 仁河